

Rotary

国際
R
I

ジェニファー・ジョーンズ会長

2022-2023年度
会長 西村 敏信
幹事 茶谷 勝

出席報告

本日出席	13人
欠席	12人
出席率	61.90%
第3316回のメークアップ	1人
第3316回の出席率	61.90%→66.66%

会長あいさつ

西村敏信会長

UOZU ROTARY CLUB



小学生英語スピーチコンテストが無事終わった。皆さんご苦労様でした。黒川ガバナー、大橋ガバナー・ミニ、村椿市長ら来賓から、「大変すばらしいコンテストだった。楽しかった」との感想をいただいた。

皆さんがそれぞれの持ち場で大変な思いをされた分、子どもたちにとって思い出深いイベントになったと思う。中田さんのお孫さんも参加されたということだが、誰一人として途中でつまることなく発表していただいた。間違っただけは私だけだった(笑)。来年は英語であいさつすることはないだろうが、今朝も6時45分からラジオ英会話を聴いている。何とかものになればいいと思っている。

Happy Birthday



愛宕夫人(16日)

70歳になる妻を祝っていただき、ありがとうございます。口はいまだに達者です。妻は乳がんの手術をして7年になる。いまのところ、再発の兆候はない。

お盆は孫たちに囲まれ、一生懸命にもてなした。いつまで元気でいられるように健康管理したい。



中田幸雄君(28日)

67歳になる。妻は2カ月後に68歳になるので、同級生のような感覚だ。小学生英語スピーチコンテストに1年生の孫が出場した。英語塾に通っていて、学校の先生にあおられて出場したらいい。

帰宅して「また出たい。負けたくない」と頼もしい言葉。自立心が芽生えてきたのかもしれない。

卓話「ガバナー補佐としての責務」



川岸芳雄君

富山第1グループ・ガバナー補佐の川岸芳雄君が「ガバナー補佐としての責務とは」の題で卓話を担当した。来春のインターシティミーティングの開催や2024年度にガバナーに就任する大橋ガバナー・ミニのサポートに関して魚津RCの協力を訴えた。

1番目にインターシティミーティングの開催については会長、実行委員長、幹事、私の4者で進める。ガバナーの日程を考慮して3月26日(日)に開催してはどうかと思っている。予算はクラブ補助10万円、地区補助金10万円、前回残金が19万円ある。登録料が今年の黒部中央RCが1万円だった。皆さん方に登録していただき、その資金で計画を組みたい。素案は会長、実行委員長と相談して9月末までに提案するので審議していただきたい。

大橋ガバナー誕生まで2年10カ月。新幹線建設にたとえると、私の年度はルート決定、用地買収になる。翌年の朝日RCのガバナー補佐の年度は、関連施設の建設、試運転の年。大橋ガバナー年度になると、魚津西RC輩出のガバナー補佐が担当する。3人のガバナー補佐が連携を取りながら、第1グループを盛り上げていかなければならない。皆さんの協力がないと前に進まない。



ニコボックス報告

川本吉伸君 妻がコロナから復帰し、私も家事から逃れることができました。

川岸芳雄君 ビジターです。よろしくお願ひます
茶谷 勝 君 病氣療養中は皆様に大変ご心配とご迷惑をおかけしました。

中田幸雄君 誕生祝い

愛宕 彰 君 夫人誕生祝い

出席報告

本日出席	12人
欠席	13人
出席率	57.14%
第3317回のメークアップ	3人
第3317回の出席率	61.90%→76.19%

会長あいさつ

西村敏信会長



誕生日を迎えたソニさんから皆さん、チョコをいただきました。日本の男性は贈り物をいただいたら、必ずお返しをする習慣があります。次回、楽しみにお待ちしております。

RI会長から会員を大切にしようとのメッセージが届いた。

会員増強は必要だが、入会が目的ではなく、ロータリアンとしての使命を共感・共有してもらうようにすることが大切だ。先日の英語スピコンで、私は無謀なチャレンジをしたつもりはない。毎日、朝6時45分から15分間ラジオ英会話を聴きながら出勤している。英語を友達にして、来年は発表の機会をいただき、今度は本当の特別賞をいただきたい。皆さん、英語頑張りましょう。

米山記念奨学生 スツバ・ソニさん



今日は私の誕生日です。皆さんにお配りしたチョコレートはほんの気持ちです。ネパールにいた時は朝、お母さんと一緒にお寺に行ったり、手料理を食べたりしていました。日本に来てからは、友達からお祝いのプレゼントをいただきました(ごめんなさい。お母さんを思い出して感極まりました)。

委員会報告

小学生英語スピーチコンテスト 青山委員長

英語スピコンは主要メンバーが諸般の事情で欠席されたが、皆さんの対応で滞りなく開催できた。市長、教育長から石崎愛菜さんに是非コンタクトを取って、小学校の英語スピーチを充実させたいと、お話をいただいた。多少なりとも、活動が寄与したと思っている。

公共イメージ 小池常任委員長

「ロータリーの友」9月号のお勧め①「ロータリーアットワーク」写真編。ロータリー奉仕デーの海岸清掃の様子を掲載②バックナンバーでたどる「ロータリーの友」70年③創刊70周年特別企画の俳句コンテスト。「プレバト」の夏井いつき氏が選者を務める。私も投句します。

卓話「アメリカ体験記 part2」



愛宕 彰 君

愛宕彰君が「アメリカ体験記 part2」の題で卓話を担当した。知人を頼って夫婦で渡米。東海岸のニュージャージー州で、花売りを営み生計を立てた。法を犯していないのに、警察官から営業妨害を受け拘束された。「人種差別が根強い」と振り返った。

40年前の1982年、東京で営業マンをしていた私は看護婦だった妻と結婚した。出会った時から渡米するのが夢だった。ある時、同じ年だった営業先のお客さんと意気投合して友人になった。英語に堪能でやり手の彼は一念発起して渡米し、建築士として成功した。私と妻は仕事をやめ、彼を頼って念願の渡米を果たした。

NYに近いニューアーク市に仮住まいして、職を探した。一番手っ取り早いのが花屋。値札を付けて置くだけでよく、言葉は不要。しかもフラワーライセンスは30ドルで取得できた。アメリカは週給制で金曜日は給料が入って花がよく売れた。売れるといっても100ドル。生活できないので、車の免許を取り、車を買って花を売る場所を探し回り、ニューアークから車で30～40分の市で最適地が見つかった。治安が良く、全米でも1、2を争うくらいよく花が売れた。花屋の許可を取りアパートを借りた。毎週金・土のみ営業で3000～4000ドルの儲けがあり、余裕ある生活ができた。バラを10～20セントで仕入れ、包装して3ドルで売った。

順風満帆な生活に悪夢が忍び寄ってきた。人種差別をする警官に目を付けられ営業妨害を受けた。2人ぐらいの大柄な北欧系の白人だった。ある日、無理やり手錠をかけられ、留置場に入れられた。50ドルでなんとか仮釈放してもらった。生きた心地がしなかった。

ボランティア活動も思い出深い。賞味期限切れに近いパンを無料で調達し、トラック一杯にパンを載せて老人ホームや教会など約30カ所を3人で回った。ボランティア活動で友人がたくさんでき、友人の弁護士に不法に警官に捕まったことを話したら、彼が裁判の弁護を引き受けてくれた。結果、無罪を勝ち取り、50ドルも返してもらった。

ニコボックス報告

青山圭一君 父が8月14日に百歳となり市長から表彰を受けました。お蔭様で父母2人自立して生活しております。